

令和4年6月15日(水)

岐阜新聞 1面

御嶽山 国定公園指定へ

県内半世紀ぶり3カ所目

環境省は14日、生態系や特徴的な地形を保全するため、国定公園の新規指定候補に岐阜と長野県にまたがる御嶽山(3067メートル)を新たに加えた。岐阜県によると、国定公園に決定すれば県内では約半世紀ぶり、飛騨木曾川と揖斐関ヶ原養老に次ぎ3カ所目となる。決定は早くとも2025年ごろになる見込み。

新規候補

【関連記事27面】

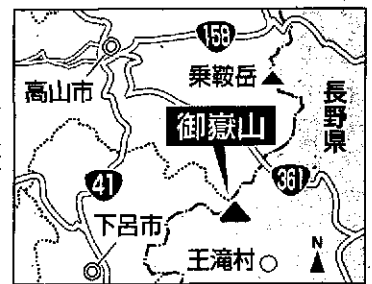
御嶽山は現在、岐阜県の唯一、国立・国定公園 県立自然公園。広い裾野のある独立峰で岐阜県側には滝が点在するほか、豊かな生物多様性があり、ライチョウの生息地でもある。古くから山岳信仰の対象にもなっており、自然と文化が融合した価値もある。環境省によると、御嶽山は標高3千以上を超える全国の山岳

環境省は、30年までに陸域と海域のそれぞれ30%以上を保護地域にする政府目標達成に向けた取り組みとして、国立・国定公園の拡大を進めている。公園の指定状況を全国的に見直すのは10年以來12年ぶり。岐阜県によると、今年1



月に環境省から国立・国定公園指定の希望について照会があり、関係市町村の意向も踏まえて国に候補地として要望していた。国定公園に決まれば、揖斐関ヶ原養老の1970年以來となる。県は今後、区

高原高地 飛騨御嶽山 トレニングエリアから望む御嶽山 下呂市



域の決定や地元との調整、生態系の調査などを実施する。長野県とも連携に向けた準備を進める。環境省はこの他、宮古島沿岸海域(沖縄)も国定公園の新規指定候補に選んだ。範囲拡張候補には新たに八幡平周辺(岩手、秋田)も選定した。国立公園の拡大は、白山(岐阜、富山、石川、福井)など3件が継続案件となった。



国立・国定公園 希少な動植物や景観を守るため、自然公園法に基づき国が指定する公園。国立公園は国が、国定公園は都道府県がそれぞれ管理する。いずれも園内を特別地域や普通地域などに区分し、特別地域では樹木の伐採や動物の捕獲、建物の増改築などを規制している。国立公園は北海道から沖縄県まで34カ所、国定公園は58カ所ある。

国立・国定公園総点検事業フォローアップ結果について

今般、2030年までに陸域と海域の30%を保護地域等で保全することを目指す国際目標の達成に向けて、令和4年4月に策定・公表された「30by30ロードマップ」等を踏まえ、最新の自然環境データ等に基づき、平成22年に実施した「国立・国定公園総点検事業」のフォローアップを行いました。
その結果、国立・国定公園の新規指定・大規模拡張候補地としての資質を有する地域を選定したので公表します。

【添付資料】

- ・別添1 国立・国定公園総点検事業フォローアップ結果について
- ・別添2 国立・国定公園総点検事業フォローアップ結果（概要）～国立・国定公園の新規指定・大規模拡張候補地の選定結果～
- ・別添3 国立・国定公園新規指定・大規模拡張候補地の選定方法

※ 添付資料は以下のURLから参照してください。

https://www.env.go.jp/council/12nature/_47_1.html

■ 国立・国定公園の新規指定・大規模拡張候補地の選定結果

(1) 国立・国定公園の新規指定候補地

国立・国定公園の新規指定候補地として、前回総点検事業からの継続を含めた4地域（日高山脈（国立公園の新規指定）、野付半島・風蓮湖・根室半島（国定公園の新規指定）、御嶽山（国定公園の新規指定）及び宮古島沿岸海域（国定公園の新規指定））を選定しました。

(2) 国立・国定公園の大規模拡張候補地

また、国立・国定公園の大規模拡張候補地として、新たに4地域（八幡平周辺（森吉山・真昼山地・田沢湖等）、奥只見・奥利根、能登半島、阿蘇周辺の草原）を選定しました。

さらに、前回総点検事業で選定された国立・国定公園の大規模拡張候補地のうち、未了の6地域は継続することとしました。

■ 参考

「30by30ロードマップ」（令和4年4月）

<https://www.env.go.jp/press/110887.html>

■ 連絡先

環境省自然環境局国立公園課

代表 03-3581-3351

直通 03-5521-8279

課長 熊倉基之 (内線 6440)

課長補佐 中山直樹 (内線 6650)

課長補佐 藤井沙耶花 (内線 6443)



国立・国定公園 総点検事業フォローアップ結果 ～国立・国定公園の新規指定・大幅拡張候補地の選定結果～

令和4年6月
環境省

30by30ロードマップ



(令和4年4月8日公表)

- 2021年のG7サミットでは、2030年までに生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」や、生物多様性の観点から2030年までに陸と海の30%以上を保全する「30by30目標」に取り組むことを約束
- 国内の30by30目標達成に向けて、COP15に先立ち「30by30ロードマップ」を策定
- 次期生物多様性国家戦略（年内閣議決定予定）に「30by30目標」を組み込み

30by30ロードマップのポイント

■国立公園等の保護地域の拡張と管理の質の向上

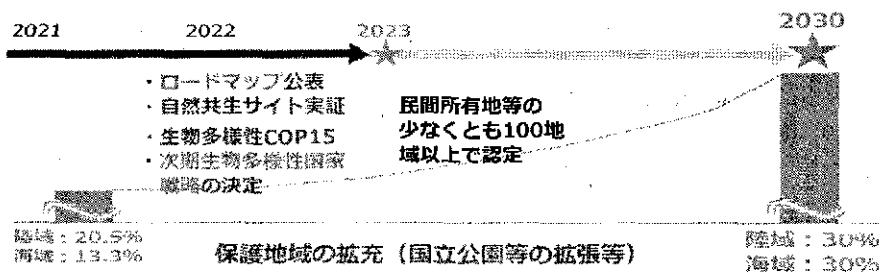


保護地域の拡張（国立公園等） OECMとなるような里地里山

■地域の方を結集し、OECMで目標達成へ

OECM※：保護地域以外の生物多様性保全に貢献している場所（例 里地里山、企業の水源の森）

※Other Effective Area-based Conservation Measures



3. 30by30目標実現のための主要施策

①保護地域の拡充と管理の質の向上

- ・ 陸域は20.5%が、海域は13.3%が既に保護地域に位置づけられている。陸域については、今後、国立公園等の拡張により現状からの上乗せを目指すこととし、とりわけ、国立・国定公園の新規指定・大規模拡張候補地を示した国立・国定公園総点検事業（2010年公表）のフォローアップを行い、未了のエリアを中心に指定・拡張の取組を継続するとともに、生態系や利用に関する最新のデータ等に基づき指定・拡張の候補地について再評価した上で、今後の国立・国定公園の新規指定・大規模拡張候補地を選定する。さらに、管理の質の向上を目指した地種区分の格上げ等について検討を進める。この作業で抽出した候補地を主な対象として、関係機関と調整の上、2030年までに日高山脈襟裳国立公園及び周辺エリアをはじめとした新規指定や大規模拡張等の調整を順次進める。また、2030年までに国立・国定公園の再検討や点検作業を強化し、必要に応じて周辺エリアの国立・国定公園への編入や地種区分の格上げを進める。
- ・ 海域については、特に景観・利用の観点からも重要で生物多様性の保全にも寄与する沿岸域において、国立公園の海域公園地区の面積を2030年までに倍増させることを目指す。
- ・ さらに、国立公園等について、広範な関係者と連携しつつ、国立公園満喫プロジェクト等により対象となる自然の保護と利用の好循環を形成するとともに、自然再生、希少種保護、外来種対策、鳥獣保護管理をはじめとした保護管理施策や管理体制の充実を図る。

30by30目標を受けたこれまでの経緯と今後の予定

R3年度 総点検事業のフォローアップ業務を実施
～R4年度（専門家へのヒアリングを含む）



R4.6.14 中央環境審議会 自然公園等小委員会に、国立・国定公園総点検事業フォローアップによる「国立・国定公園の新規指定・大規模拡張候補地の選定結果」等を報告・公表

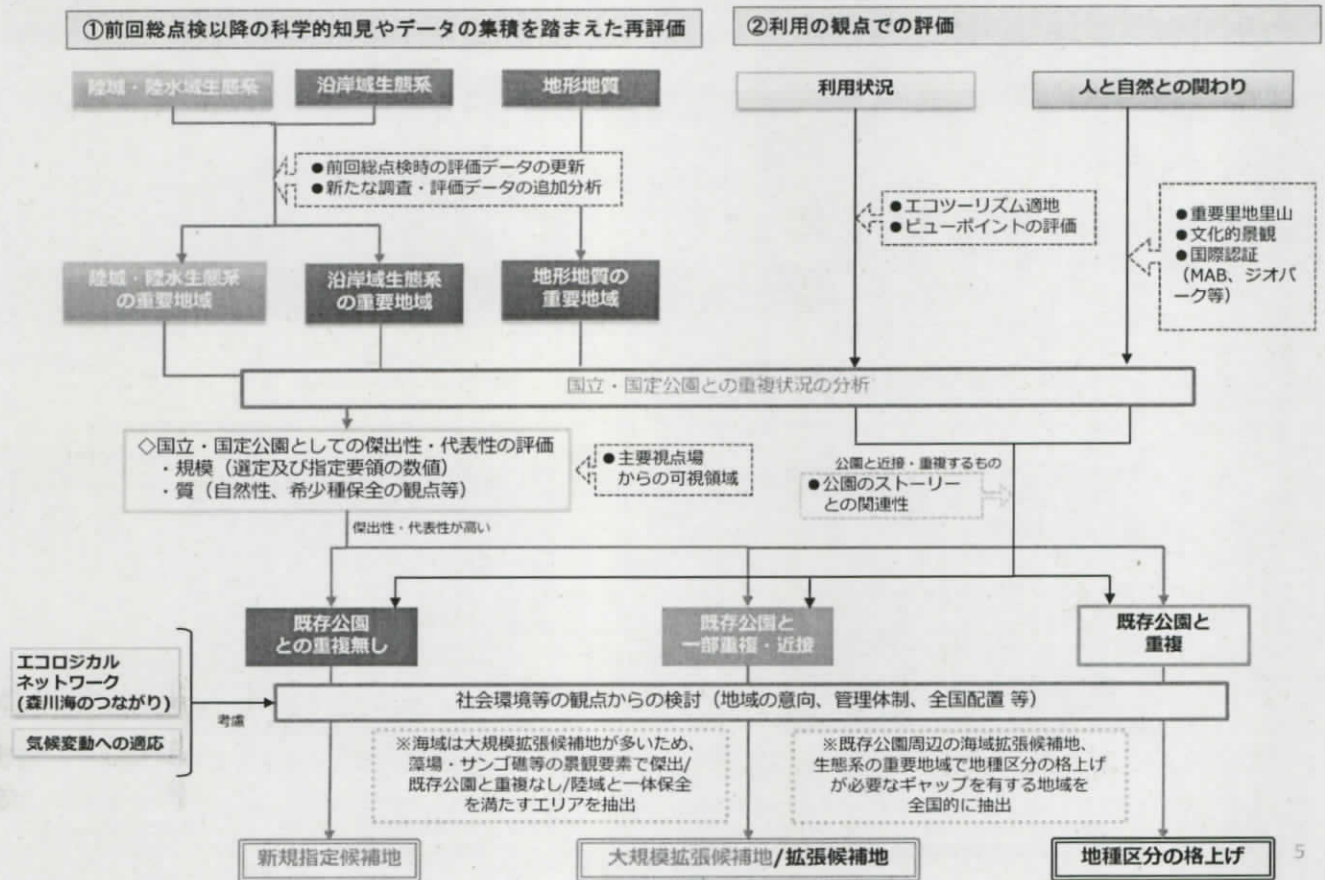


以後、地域の関係機関との調整や自然環境の詳細な調査等を行い、具体的な区域の範囲や地種区分について検討



2030年に向けて順次指定・拡張を目指す

総点検事業フォローアップ業務による候補地選定フロー



国立・国定公園新規指定・大規模拡張候補地の選定結果

国立・国定公園総点検事業のフォローアップにより、国立・国定公園の新規指定・大幅拡張候補地を抽出した。

※今回候補地は最新の自然環境データ等に基づき資質の観点から抽出したものであり、将来的な公園指定や公園区域の拡張に向けては、関係機関との調整や詳細な調査検討が今後必要である。

- 今回のフォローアップによる**新規指定候補地**(前回総点検事業からの継続を含む・4地域)
 - ・野付半島・風蓮湖・根室半島※ 【国定公園の新規指定】
 - ・日高山脈・夕張山地※ 【国立公園の新規指定等】
 - ・御嶽山 【国定公園の新規指定】
 - ・宮古島沿岸海域(八重干瀬を含む) 【国定公園の新規指定】
 - ※前回総点検事業からの継続
- 今回のフォローアップによる**新たな大規模拡張候補地**(4地域)
 - ・八幡平周辺(森吉山・真昼山地・田沢湖等) 【国立公園区域の拡張又は国定公園の新規指定】
 - ・奥只見・奥利根 【国立・国定公園区域の拡張等】
 - ・能登半島 【国定公園区域の拡張】
 - ・阿蘇周辺の草原 【国立公園区域の拡張】

なお、上記以外の前回総点検事業の候補地のうち未了の6地域については、継続する。(参考参照)

国立・国定公園の新規指定候補地



日高山脈 (国立公園候補地)

氷河時代に形成された地形など傑出した地形地質が集中して分布する日本を代表する自然の風景地。植物や高山チョウ等に固有種がみられる。高山から山麓部にかけて広がる自然性が高い森林及び原生流域としては国内最大規模のまとまりがある。



御嶽山 (国定公園候補地)

標高3000mを超える山岳で現在唯一国立・国定公園に指定されていない、雄大な独立峰。高山から山腹まで連続的に自然植生が変化。ライチョウの生息地としても重要。山体の崩壊地形など地形上重要な要素もみられる。古くからの山岳信仰の対象の山であり、自然と文化が融合した価値も高い。



野付半島・風蓮湖・根室半島 (国定公園候補地)

高層・中間・低層湿原や塩性湿地、潟湖、藻場・干潟等の多様で国内有数の規模を誇る湿地が森から海まで連続性を持って分布。オオワシやタンチョウなど我が国屈指の野鳥の生息地。国内最大規模のアマモ場が広がる。

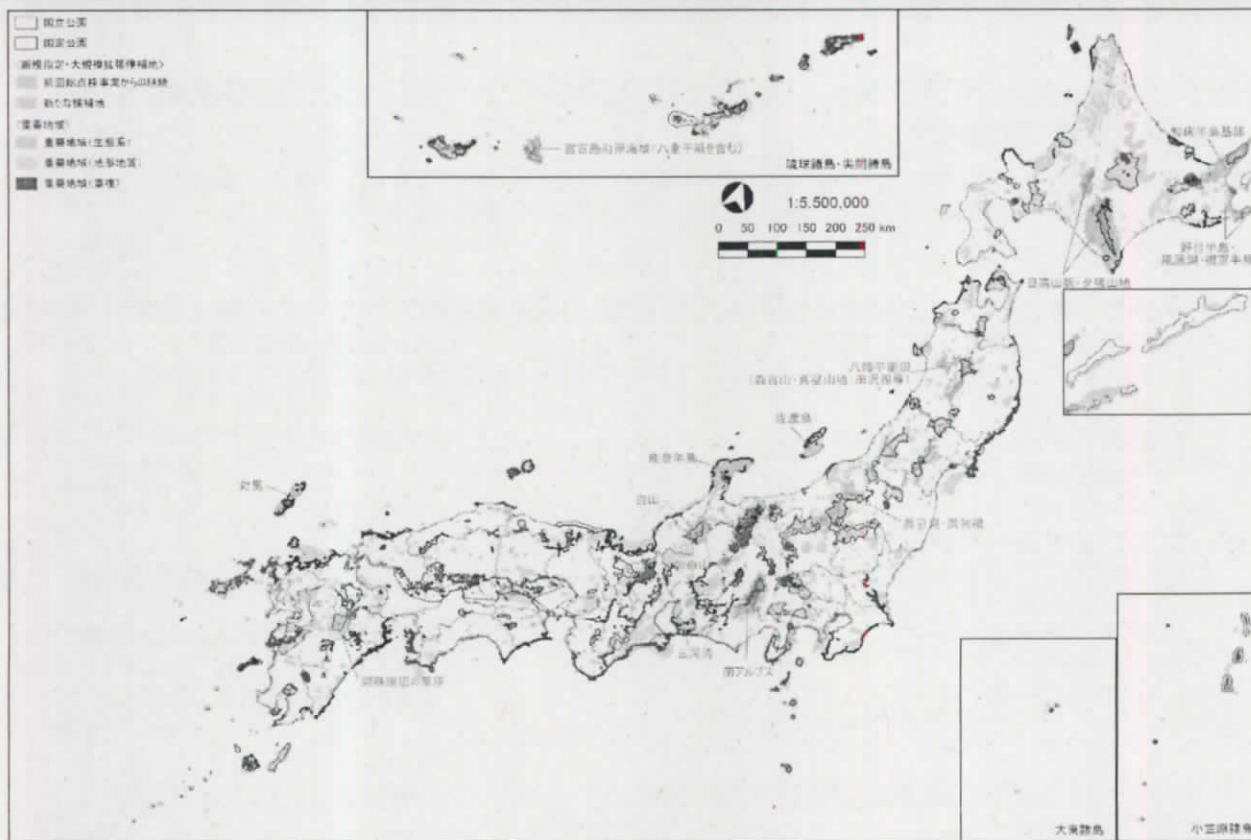


宮古島沿岸海域 (国定公園候補地)

国内最大規模となるサンゴ礁群である八重干瀬(やびじ)等がある。また優れた景観を有する自然砂浜、マングローブ林、広大な海草藻場が分布し、干潟は渡り鳥の重要な渡来地となっている。ウミガメの産卵地としても重要。

国立・国定公園新規指定・大規模拡張候補地の選定結果

環境省



※候補地は最新の自然環境データ等に基づき資質の観点から抽出したものであり、本図で図示された区域は自然植生・藻場・サンゴ礁等からなる生態系・地質の重要地域の区域を主に参考にして記入したものである。詳細な区域の範囲は決まっておらず、将来的な公園指定や公園区域の拡張に向けた関係機関との調整や詳細な調査検討が今後必要である。